

学園史料館 特別講演会

成蹊気象観測90年の歴史と 成蹊学園のESD活動

1926(大正15/昭和元)年、旧制成蹊高等学校の教諭加藤藤吉が生徒とともに開始した正式な気象観測は、今日まで一日も欠かすことなく継続され、90年の歴史を刻んでいます。

また近年、ユネスコが提唱し文科省が推進しているESD(Education for Sustainable Development)とは、「持続可能な社会の担い手を育む教育」のことですが、学園では100年前の創立以来、ESDの理念に通じる教育を実践してきました。成蹊教育の特徴は、実験や観察、校外学習を通じた「本物にふれる体験」により問題意識をあたため、科学的思考に高めていくことにありますが、ESDもまた同様な教育実践に価値をおくものであり、気象観測もその実践のひとつです。

学園史料館で開催中の特別展示と併せて、気象観測90年の歩みと、現代のESDの理念に通じる成蹊の伝統的な教育実践を紹介し、その真価を明らかにする講演会を開催致します。

2018年3月2日(金) 申込・予約不要 参加費無料

会場 成蹊学園史料館 ガイダンスルーム

主催:成蹊学園史料館

【特別講演会】

第1部

(17:00開場)

17:30

|

18:15

成蹊気象観測所の歴史

成蹊気象観測のはじまりから今日に至るまでの歩みと、現在の活動について講演します。

講演者 宮下 敦 (成蹊中学・高等学校教諭/成蹊気象観測所所長)



休憩10分

第2部

18:25

|

19:10

持続発展教育(ESD)の理念と 成蹊教育の伝統

持続発展教育(ESD)と成蹊教育との親和性を成蹊学園の歴史に探ります。

講演者 小田 宏信 (成蹊大学経済学部教授)

成蹊学園
サステナビリティ
教育研究センター
(ESDセンター)
2018年4月
オープン

◆問い合わせ先◆

成蹊学園 史料館

TEL.0422-37-3994

〒180-8633 武蔵野市吉祥寺北町3-3-1

E-mail:archives@jim.seikei.ac.jp

2015年12月のリニューアル後、
来館者数が延べ25,000人に達しました。